

医療コミュニケーション

責任者名：上原 任（医療人間科学 専任講師）

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：演習

◆担当教員

上原 任(医療人間科学 専任講師)

中島 一郎(医療人間科学 教授)

三澤 麻衣子(医療人間科学 専任講師)

松野 俊夫(小児歯科学・医療人間科学 兼任講師)

寺嶋 利子(医療人間科学 兼任講師)

本橋 佳子(医療人間科学 兼任講師)

永瀬 安美(医療人間科学 兼任講師)

◆一般目標（GIO）

医療における患者との信頼関係を確立するために、コミュニケーションの理論・技能・重要性を理解し、その能力を身につける。

◆到達目標（SBOs）

- ①コミュニケーションの目的と技法を説明できる。
- ②必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明の準備ができる。
- ③説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。
- ④患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。
- ⑤患者との信頼関係を築くことができる。
- ⑥患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。

◆評価方法

全時間の出席が前提である。欠席した場合は補完授業を受けること。無断欠席は大幅な減点の対象とする。

提出を指示した演習成果等の未提出・参加態度不良は減点の対象とする。

演習等の成果56%・平常試験(筆記)32%・平常試験(技能)12%で評価する。なお平常試験の方法はWeb等を利用して行う場合がある。

平常試験に対するフィードバックは当該試験後の授業時または次回授業時に、演習成果に対するフィードバックは次回以降の授業時にそれぞれ実施する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
上原 任	月曜日 17:00～18:00 3号館3階医療人間科学研究室	uehara.tamotsu@nihon-u.ac.jp	なるべくメールで連絡すること
中島 一郎	月曜日 17:00～18:00		

	3号館7階教授室		
三澤 麻衣子	月曜日 12:00～13:00 3号館3階医療人間科学研究室		
松野 俊夫	授業終了後に質問を受け付ける。		
寺嶋 利子	授業終了後に質問を受け付ける。		
本橋 佳子	授業終了後に質問を受け付ける。		
永瀬 安美	授業終了後に質問を受け付ける		

◆授業の方法

演習形式の科目である。医療面接ではロールプレイ形式を応用したシミュレーションと、それによって得られた気づきに基づくディスカッションを主体に行う。実習成果の提出を指示したものは評価の対象なので必ず提出すること。

【実務経験】上原 任：日本大学歯学部附属歯科病院口腔外科での経験等の話も交えながら、臨床現場において本教科で学ぶコミュニケーションの理論や技法がいかにか活かされるかについて学ぶ機会を提供する。

【実務経験】松野俊夫：日本大学医学部附属板橋病院心療内科での経験等の話も交えながら、多様な患者さんへの対応について学ぶ機会を提供する。

【実務経験】永瀬安美：日本大学歯学部での模擬患者としての経験に基づき、医療コミュニケーションで医療者が陥りがちなエラーについて学ぶ機会を提供する。

◆アクティブ・ラーニング

反転授業の形式を用い、予習に基づいてプレゼンテーションを予定している。詳細は授業の進行に合わせて指示する。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書1	スタンダード社会歯科学	石井 拓男 他	学建書院	2018以降の版
教科書2	はじめての医療面接	斎藤 清二	医学書院	2000
教科書3	新 医療と看護のための心理学	藤田 主一 他	福村出版	2009
プリント	プリント配付			

◆DP・CP

[DP-6] コンピテンス：コミュニケーション力

コンピテンシー：医療をはじめとする様々な場面において、他者との円滑な意思の疎通を行い、互いに価値観を共

有し、適切なコミュニケーションを実践して自らの考えを発信することができる。

[CP6] 他者の意見を尊重し、明確な意思疎通のもと、円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を養成する。

[CP7] 歯科医師の責務を自覚して、責任あるリーダーシップを発揮し、患者を中心としたチーム医療における適切なコミュニケーション能力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

事前に教科書を読んで、授業内容の概要を理解しておくこと。

特に、準備学習の範囲を呈示された場合には必ず学習してくること。

復習は次回への準備学習に相当するので積極的に行うこと。

◆準備学習時間

授業時間は合計 30 時間である。さらに 15 時間を予習・復習に充てること。

◆全学年を通しての関連教科

第 1 学年前期歯科医学序論 I

第 1 学年後期歯科医学序論 II

第 2 学年前期医療と倫理

第 2 学年後期プロフェッショナリズムと行動科学

第 3 学年前期医療と福祉

第 4 学年前期医療面接

第 4 学年後期診査診断学実習

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1, 2	A B	9.7 9.7	5 ～ 6 2 ～ 3	1. 医療コミュニケーション総論 1)総論	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の歯科医療において人間性が重要視されていることを理解できる。 ・患者との信頼関係づくりを行うことの重要性について理解する。 ・この教科の学修内容の概略を理解する。 ・準備学習の範囲と内容を知る。 	中島 一郎 上原 任	A-1-2) 患者中心の視点 A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権
3, 4	A B	9.14 9.14	5 ～ 6 2 ～ 3	「平常試験」 平常試験の解説 1. 医療コミュニケーション総論 2)医療面接の意義と目的 (教 1)pp.19-21	<ul style="list-style-type: none"> ・平常試験を行い準備学習の内容について確認する。 ・解説により準備学習の内容について理解を深める。 ・医療面接と問診の違いを説明できる。 ・医療面接の 3 つの目的を説明できる。 ・患者—医療者関係について説明で 	上原 任	A-4-1) コミュニケーション

					<p>きる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療面接の基本技術を説明できる。 ・準備学習の範囲と内容を知る。 		
5, 6	A B	9.28 9.28	5 ～ 6 2 ～ 3	<p>「平常試験」 平常試験の解説</p> <p>1. 医療コミュニケーション総論</p> <p>3)医療面接のマネー (教1)pp.22-29</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平常試験を行い準備学習の内容について確認する。 ・解説により準備学習の内容について理解を深める。 ・医療コミュニケーションの進め方を知る。 ・質問法・傾聴技法の概要を説明できる。 	上原 任	A-4-1) コミュニケーション A-4-2) 患者と歯科医師の関係
7, 8	A B	10.5 10.5	5 ～ 6 2 ～ 3	<p>1. 医療コミュニケーション総論</p> <p>4)認識の違い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ物を見ても受け手によって認識が異なることを知る。 ・患者と医療者の認識に差がある場合には医療者が歩み寄るべきことを理解する。 ・演習によって理解を深める。 ・演習成果物を提出する。 	上原 任 三澤 麻衣子	A-4-2) 患者と歯科医師の関係
9, 10	A B	10.12 10.12	5 ～ 6 2 ～ 3	<p>2. 説明・指導場面のコミュニケーション</p> <p>1)ロールプレイ型演習について</p> <p>2)歯科臨床における説明・指導場面のコミュニケーション(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイ形式の演習について説明できる。 ・歯周疾患を題材に、患者に対する説明・指導内容を整理する。 ・患者に対する態度や説明・指導のあり方を知る。 ・平易な言葉遣いで疾患について説明できる。 ・演習によって理解を深める。 ・演習成果物を提出する。 	上原 任 三澤 麻衣子 寺嶋 利子 本橋 佳子	A-4-1) コミュニケーション A-4-2) 患者と歯科医師の関係
11, 12	A B	10.19 10.19	5 ～ 6 2 ～ 3	<p>2. 説明・指導場面のコミュニケーション</p> <p>3)SPIKES モデル</p> <p>4)キューブラー・ロスによる死の心理過程</p> <p>5)歯科臨床における説明・指導場面のコミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「悪い知らせ」を題材に、患者に対する説明・指導内容を整理する。 ・SPIKES モデルについて説明できる。 ・キューブラー・ロスによる死の心理過程について理解する。 ・患者に対する態度や説明・指導のあり方を体験する。 ・演習によって理解を深める。 ・演習成果物を提出する。 	上原 任 三澤 麻衣子 寺嶋 利子 本橋 佳子	A-4-1) コミュニケーション A-4-2) 患者と歯科医師の関係

				ヨソ(2) (教3)pp.138-154			
13,14	A B	10.26 10.26	5 ~ 6 2 ~ 3	「平常試験(技能)」 2. 説明・指導場面のコミュニケーション 6) 歯科臨床における説明・指導場面のコミュニケーション(3) 平常試験の解説	・説明・指導場面の医療コミュニケーションの技能に関わる試験を行い、第7~12回の授業で学修した内容を確認する。 ・解説により理解度を確認する。 ・準備学習の範囲と内容を知る。	上原 任 三澤 麻衣子	A-4-1) コミュニケーション A-4-2) 患者と歯科医師の関係
15,16	A B	11.2 11.2	5 ~ 6 2 ~ 3	「平常試験」 平常試験の解説 3. 初診時医療面接 1) 病歴聴取 (教1)pp.29-31 2) 医療倫理・患者の権利と医療コミュニケーション (教1)pp.1-17	・平常試験を行い準備学習の内容について確認する。 ・解説により準備学習の内容について理解を深める。 ・問診と重なる部分(病歴聴取)について説明できる。 ・医療倫理やインフォームドコンセントと医療コミュニケーションの関係について理解する。 ・準備学習の範囲と内容を知る。	上原 任	A-4-1) コミュニケーション E-1-1) 診察の基本
17,18	A B	11.9 11.9	5 ~ 6 2 ~ 3	「平常試験」 平常試験の解説 3. 初診時医療面接 3) 医療面接の基礎 (教2)pp.序 iii-vi, pp.1-31 4) 医療面接の技法概説 (教2)pp.33-97	・平常試験を行い準備学習の内容について確認する。 ・解説により準備学習の内容について理解を深める。 ・初めて患者と出会う場面における医療面接の重要性を説明できる。 ・基本的な傾聴技法について知る。 ・準備学習の範囲と内容を知る。	上原 任	A-4-1) コミュニケーション E-1-1) 診察の基本
19,20	A B	11.16 11.16	5 ~ 6 2 ~ 3	3. 初診時医療面接 5) 医療面接の技法(1) (教2)pp.33-52	・傾聴技法における「質問」について理解する。 ・傾聴技法における「要約」と「確認」を理解する。 ・演習によって理解を深める。 ・演習成果物を提出する。 ・準備学習の範囲と内容を知る。	永瀬 安美 上原 任 三澤 麻衣子	A-4-1) コミュニケーション

21,22	A B	11.30 11.30	5 ～ 6 2 ～ 3	3. 初診時医療面接 6)医療面接の技法(2) (教2)pp.52-75	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴技法のうち、「支持」と「共感」について説明できる。 ・「焦点付け」の技法について説明できる。 ・演習によって理解を深める。 ・演習成果物を提出する。 ・準備学習の範囲と内容を知る。 	永瀬 安美 上原 任 三澤 麻衣子	A-4-1) コミュニケーション
23,24	A B	12.7 12.7	5 ～ 6 2 ～ 3	3. 初診時医療面接 7)医療面接の技法(3) (教2)pp.77-97	<ul style="list-style-type: none"> ・積極技法と言われる「指示」・「説明」・「情報提供」などについて知る。 ・「自己開示」「対決」など患者の意思決定に関わる技法について知る。 ・医療面接の締め括りに行う事項を説明できる。 ・演習によって理解を深める。 ・演習成果物を提出する。 	永瀬 安美 上原 任 三澤 麻衣子	A-4-1) コミュニケーション
25,26	A B	12.9 12.9	5 ～ 6 2 ～ 3	3. 初診時医療面接 8)患者シナリオの構成 【12月9日(水曜日)】	<ul style="list-style-type: none"> ・資料として提供する医療面接のスキriptから患者シナリオを再構成する事で患者の全体像を把握する。 ・演習によって理解を深める。 ・演習成果物を提出する。 	上原 任 三澤 麻衣子 永瀬 安美	A-4-1) コミュニケーション A-4-2) 患者と歯科医師の関係
27,28	A B	12.14 12.14	5 ～ 6 2 ～ 3	3. 初診時医療面接 9)多様な患者さんへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・医療面接における、多様な患者の心理面を配慮したコミュニケーションのあり方について知る。 ・演習によって理解を深める。 	松野 俊夫 上原 任 三澤 麻衣子	A-4-2) 患者と歯科医師の関係
29,30	A B	12.21 12.21	5 ～ 6 2 ～ 3	4. 総括 1)医療コミュニケーションのまとめ 2)今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当教科で取り上げた内容を振り返り、医療コミュニケーションに対する理解を深める。 ・患者と接する際のあり方について理解を深め、第4学年への各自の課題を明確にする。 	中島 一郎 上原 任	A-4-1) コミュニケーション A-1-2) 患者中心の視点

